# 南 島 みなみしま

淀川と旧淀川の分流点東方、淀川左岸に位置する。地名は、当地付近の淀川内に1つの洲があり、南島と呼ばれていたことによる。中世、当地には畠山氏の城砦があったと伝えられる(「角川日本地名大辞典27大阪府」より)。

■大宮2丁目の電柱

「ミナミジマ」という地名の名残が、大宮2丁目にある電柱のプレートから見ることができる。

## [近世]南島村

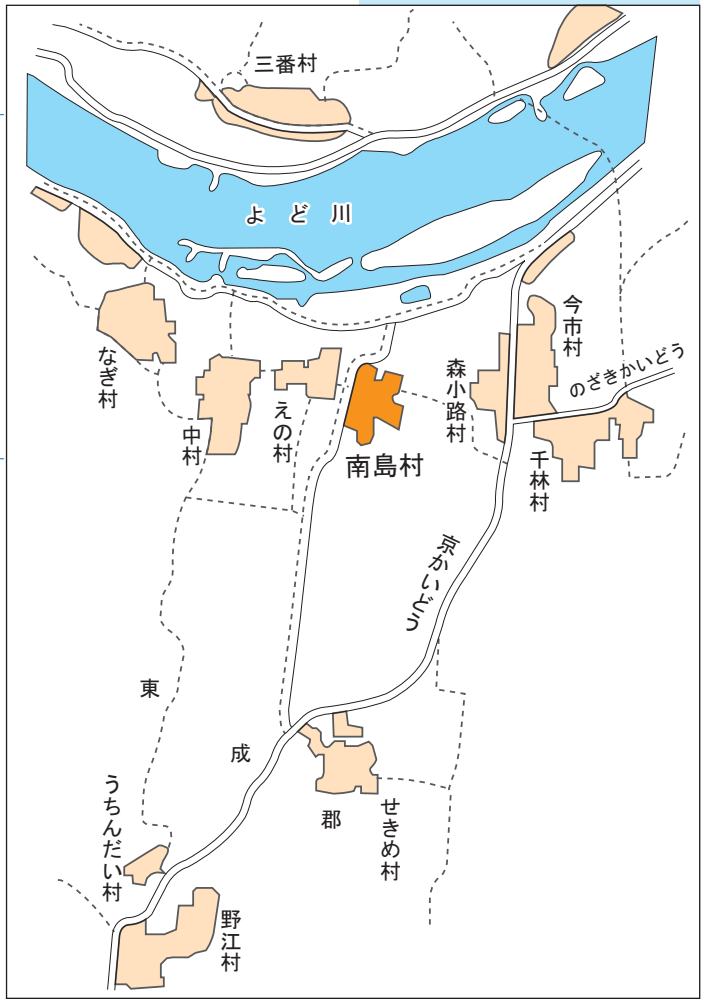
江戸期～明治22年(1889年)の村名。摂津国東成郡のうち。摂津高改帳によれば元和2年(1616年)頃は大坂藩松平領と見え、同5年(1619年)幕府領、天保9年(1838年)から一部が大坂城代役知となる。村高は、摂津高改帳で681石余、摂津草高帳にも同高、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに647余。神社に大宮八幡宮(現大宮神社)がある。「五畿内志」には南島神社と見える。江戸期の同社氏子圏は当村のほか森小路村・江野村・内代村。また同社は大坂城の鬼門に位置することから、毎年1・5・9に城代または名代が参拝して玉串を納めたという。寺院に、天文23年(1554年)周道の開基になる浄土真宗本派善立寺がある。明治2年(1869年)に大阪府所属。同9年の人口321。同22年(1889年)古市村の大字となる。

## [近代]南 島

明治22年(1889年)～大正14年(1925年)の古市村の大字名。明治24年(1891年)の戸数58、男190人・女175人、幅員は東西2町20間・南北1町50間(徴発物件一覧表)。大正14年(1925年)東成区南島となる。

## [近代]南島町

大正14年(1925年)～昭和25年(1950年)の町名。はじめ東成区、昭和7年(1932年)からは旭区の町名。昭和4年(1929年)～25年(1950年)に関目町1～4丁目・森小路町1～8丁目・古市北通1～5丁目・古市中通1～5丁目・古市南通1～5丁目・大宮西之町1～8丁目・大宮町1～10丁目・大宮北之町1～2丁目となる。



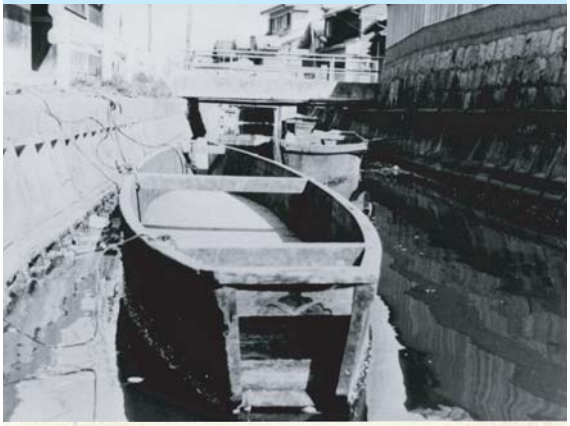

■旭区の古地図
「大宮小地域資料　大阪市立大宮小学校創立70周年記念」CD-ROMを参照して作成

# 南島の産業

南島村は元和6年（1620年）、江戸幕府直轄地となり、あたりは農村地帯であった。代官所は、大坂鈴木町、谷町の2ヶ所に設けられていた。村々では、庄屋、年寄、百姓代などの役人、村方三役（むらかたさんやく）が置かれていた。当時の村には、淀川水系の用水路、交通水路が村といわず耕地といわず、四通八達（しつうはったつ）していた。この井路といわれる水路を「三まいた（三枚板）」という、長さ約4，5メートル、幅1メートルの小回り舟を自在に操って、農民たちは農作物や肥料を運搬し、村内自由に往来していた。年貢米も庄屋の監督のもとに、村の蔵に納められた後、三まいた舟で大坂代官所に納められた。南島村では六百六十二石三斗四升四合であった。

（参考）千林村は八百八十二石七斗五升八合、今市村は八百四十四石八斗三升、森小路村は五百七十二石四斗一升五合

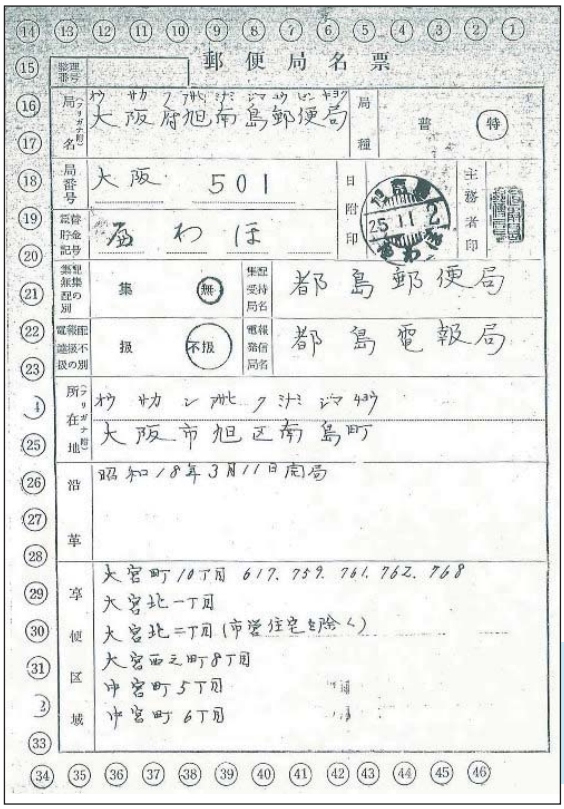
明治中期までは、江戸時代と変わらない農業生産中心にした生活が続いた。低湿で湿田が多く、米作を主とし、野菜は大消費地に近いため、作付けは全耕地の三割を占め盛んであった。毛馬キュウリ、大根、マクワうり、レンコン等で、この他は菜種や綿実、果物は明治後期に果実園ができ、ナシ（長十郎など）、ブドウ（甲州物）が作られていた。南島という地名時代の人口は、354名（旭図書館資料より）。



■三まいた（三枚板）
上）「城東区50年のあゆみ」より
下）旭区史より

■淀川付近ではナシ畑やブドウ畑が広がっていた
（写真：中村英祐）

■柳通り一帯にはネギ畑が広がっていた
（写真：中村英祐）



郵便局名票

局名：大阪府旭南島郵便局
局番号：大阪 501
貯金記号：為わほ
集配：集（無）　集配受持局名：都島郵便局
電報：扱（不扱）　電報発信局名：都島電報局
所在地：大阪市旭区南島町
沿革：昭和18年3月11日開局
区域：大宮町10丁目 617, 759, 761, 762, 768
大宮北一丁目
大宮北二丁目（市営住宅を除く）
大宮西之町8丁目
中宮町5丁目
中宮町6丁目

■郵便局名票

郵便局名票には、大阪府旭南島郵便局と記述されている。
（現在の中宮四丁目にある旭中宮郵便局）